

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0772200176		
法人名	株式会社 エコ		
事業所名	グループホームありあ 1階		
所在地	福島県岩瀬郡鏡石町不時沼52		
自己評価作成日	平成29年3月30日	評価結果市町村受理日	平成29年8月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成29年6月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成15年の開所より地域に愛されるホーム作りを目指して運営しております。日々穏やかに安心して暮らして頂けるように、地域の方々との関わりを大切にしながら支援に努めております。また、地域行事へも積極的に参加しております。個別ケアを行い、残存機能を活かしていけるよう支援しております。総合防災訓練や毎月防災訓練を実施し、安心した生活が送れるような体制を整えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 職員は利用者一人ひとりに寄り添い傾聴しながら利用者を尊重し、利用者本位の支援を行っている。また、日頃から家族とコミュニケーションがとられ、家族の面会等もあり利用者の安心につながっており、利用者はゆったりと落ち着いて生活している。
 2. 外出行事や事業所行事の際には、利用者の希望献立を取り入れ、お寿司やラーメン、蕎麦等を提供する機会も多く、楽しい食事となるよう支援している。また、利用者の状況に応じてミキサー食対応をしているが、職員もミキサー食の味見をしながら、美味しい食事が提供出来るよう配慮している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念を掲示し、朝の申し送り前に唱和を行い、職員間で共有しながら入居者様に応じた個別ケアが実践できるように取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義を反映した理念を作成し、フロアに掲示してある。毎朝の申し送り時に唱和を行い、職員間で理念を共有しながら、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動へ参加し、地域行事の際は子ども神輿がホームに訪問して下さるなど、地域の方々との協力を頂きながら交流を図っている。	町内会に加入し、地域の清掃活動や敬老会等に利用者と参加している。また、事業所行事の際に大正琴やハーモニカボランティア、幼稚園児の訪問もあり、利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、グループホームや認知症の方についての説明を取り入れ、地域の方々々に理解して頂けるよう工夫をしている。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	毎月の事業所行事や事故発生について報告し、助言を頂いている。頂いた助言については本社に報告し検討している。	運営推進会議は、定期的開催されている。事業所から状況報告(現状報告、事業所行事、外部評価等)をし、委員から避難訓練への意見(居室入口が車椅子での出入り時に狭い)が出され、入口ドアの改修をする等、サービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターや役場に出向き、入居の相談や状況報告、待機者の相談をしている。	行政担当者とは、日常的に入居状況の報告等で連絡を取ったり、介護保険の認定更新手続きや事故の報告をしている。また、運営推進会議にも参加があるため事業所の状況を把握し、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を通じ、身体拘束の及ぼす悪影響を理解し、身体拘束を行わないケアに日々取り組んでいる。	職員は身体拘束をしないケアを法人内研修会等で学び、実践に努めている。ユニット入口にセンサーを付け、利用者が一人で外出しないよう気を付けている。夜間を除いて玄関の施錠は行っていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを活用し、職員の知識を深め、虐待を行わないケアに取り組んでいる。職員同士で虐待につながらないように、確認しながらケアを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度や地域権利擁護に関する研修を受講し、理解を深めている。入居者様に制度が必要な方がいれば、利用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約の際には、内容を時間をかけて丁寧に説明し、不明な点がないように確認しながら契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の意見は、日常生活の中で確認している。また、ご家族様には面会時に要望等を聞き取りするように全職員が取り組んでいる。	家族の面会時や電話連絡時、運営推進会議出席時に職員が積極的に、意見・要望を聞くように努めている。把握した意見(食後の口の周りの汚れの指摘)に対して、食膳にお手拭き等を出す等、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者を始め、本社の担当者が訪問し職員の相談等を聞き、運営に関する改善に努めている。	日常業務、職員会議や個別面談の中で意見等を聞く機会を設け、出された意見や要望を運営に反映させている。日頃から職員間のコミュニケーションはよくとられており、どのような意見等も言いやすい雰囲気である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に関わる支援制度があり、職員の処遇改善や意欲向上につながるよう整備を進めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修制度があり、職員のスキルに合った研修を受講することができる。また、働きながら資格取得できるような支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者や法人内の職員との交流が多くあり、連携を図りながらサービスの向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時は相手の要望等に耳を傾け、意見等があれば、職員が共有しながら対応し、安心を確保できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	受付の段階から、ご家族の不安や要望に耳を傾け、職員が情報を共有し、サービスに反映できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時より、本人に何が必要かを見極め、本人と家族と話し合いながら必要なサービスを提供できるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と同じ一つ屋根の下で暮らす家族のように、垣根を作らず何でも話し合えるような関係性を作れるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	管理者を中心に面会時や電話にて、入居者様の心身状態を報告し、相談しながら、共に本人を支えていく関係を築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	身体機能上外出が困難な方が多いため、家族や知人の方々の面会時に楽しく過ごして頂けるように配慮している。	家族の協力を得ながら外食、自宅や馴染みの美容室に行く等、馴染みの関係が途切れないよう支援している。また、家族や友人・知人等の訪問を受けた時は、お茶を出し、ゆっくり過ごしてもらうよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような工夫を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後も、その後の相談や支援に応じる姿勢を示しながら経過を見守り、必要に応じてフォローできるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で、その時々言葉や思いを聞き、職員が共有し、検討してケアにつなげている。	利用者とのふれあいの中で思いや意向を把握し、職員間で共有されている。把握が困難な時は、家族の意見を聞き、利用者本位に検討をしている。職員間の情報共有に努めており、一人ひとりの意向に沿った支援がなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握し、生活の中で馴染みの物を使用し生活できるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態等を観察し、毎日の申し送りで情報共有することによって職員が現状把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケース会議を行い、本人や家族、職員が持っている情報を共有し、介護支援専門員が中心となりプラン作成している。	利用者の心身状態や利用者・家族の意向を踏まえケース会議で話し合い、現状に即した介護計画書を作成している。また、状態に変化があった場合には家族・職員等の意見や改善案を話し合い計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの中で気づきがあれば、個別記録に記入し、職員が情報を共有し、実践や介護計画に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様一人ひとりに関する情報を会議等にて共有し、個々のニーズに合わせた支援が行えるように、地域包括支援センターや主治医と連携を図りながら取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加やボランティアをお招きするなど地域資源を活用しつつ、安全で豊かに生活できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な訪問診療により適切な医療が受けられるように医師と連携を図っている。また、診察状況等を家族に報告している。	利用者・家族が希望するかかりつけ医による受診となっており、通院が困難な利用者は協力医の往診で対応している。家族による通院同行時は受診結果を確認し、事業所での往診結果は家族に記録のコピーを渡し、電話連絡をする等情報共有がされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタル測定し、職員は一人ひとりの状態を把握している。医療連携の看護師に健康状態を報告し、助言等を頂き、ケアにつなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的に病院に訪問し、家族や病院関係者と連携を取っている。退院前にも家族と病院関係者と連携を取り、ホームでの生活を継続して行けるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期について書式にて確認を行っている。また、入居後も主治医や家族と連携をはかり、意向を確認している。意向は職員で共有している。	入居時に事業所の看取り指針を説明し、利用者・家族の同意を得ている。終末期の意向確認も行っている。その後、利用者の状況の変動に応じて随時意思確認をしており、終末期・看取り等の職員教育を行いながら、取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルの活用や定期的な研修の実施により、急変時や事故発生時は早期に対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月防災訓練を実施し、地域の方々にも呼びかけを行っている。非常時の備蓄品も整っている。	運営推進会議の委員も参加して消防署立会の防災訓練を実施したり、毎月の避難訓練(地震・夜間想定訓練を含む)等が行われている。また、非常時の備蓄(食糧・水・ヘルメット・鍋・コンロ等)は準備されている。屋外の非常階段に一時避難場所や屋根を整備し、居室からの車椅子の出入りがし易いよう入口の改修もされている。	最新の災害対策マニュアルへ見直し、緊急連絡網に地域の協力者を含めて作り直し、毎月の訓練の記録には具体的な内容(誰が、何をしたのか、避難時間は何分か等)を記録することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の方が理解しやすいような言葉かけを行い、一人の人格を尊重しながらケアを行っている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう利用者一人ひとりに寄り添い、視線を合わせ、言葉かけ・誘導を行っている。また、個人情報の書類は、鍵のかかる書棚にて保管対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事や誕生日には入居者様が希望した食事を提供したり、洋服など自分で選んで頂くよう自己決定の支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の体調や状況に応じて、食事の時間をずらしたり、入浴の曜日や時間を希望に沿って提供できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常の身だしなみはその都度必要に応じて支援している。また、季節や好みに合わせた洋服を自分で選んで着て頂けるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	敷地内の畑で取れた野菜などを献立に取り入れ、収穫したものを一緒に下ごしらえや味付けを行っている。食事は職員もテーブルを囲み、楽しく食事ができるよう工夫している。	基本的な献立はあるものの、季節の行事・誕生会・外食等に入居者の希望(お寿司やラーメン等)や敷地の畑で収穫した野菜を取入れている。また、利用者と職員が会話しながら楽しい食事となるよう支援している。職員が味見をしながら、ミキサー食が美味しく提供出来ているか確認している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量や水分量を記録し、情報を共有している。水分量が少ない方には、好みの飲み物を提供し水分量を確保している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の状態に合わせ、職員が口腔内の清潔が保てるように支援している。また、本社の歯科衛生士が訪問し、口腔内の状態を観察し、助言を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを観察し、排泄パターンを職員が共有することで、トイレでの排泄が継続していけるように支援している。	排泄確認チェックシートにて、各自の排泄パターンを把握している。把握した排泄パターンや仕草を見ながら、個々の状態に応じて、声掛け誘導等行いできるだけトイレで排泄出来るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の観察を行い、バランスのとれた食事と水分を提供している。入居者様の状態に合わせ、乳製品を取り入れ、自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の体調や気分に合わせて、入浴の支援をしている。体調等により入浴できない場合は清拭にて対応している。	利用者の入浴に対する要望を聞き、心身の状況に応じて、体調確認し入浴支援している。入浴拒否等ある場合は午前と午後に声掛けしながら対応している。入浴剤、変わり湯(菖蒲湯・ゆず湯)、ジェットバスを利用しながら入浴が楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や湿度など安眠への配慮を行い、落ち着いた環境を整備している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の処方薬や作用、副作用を主治医や医療連携の看護師から助言をもらい、服薬介助や状態観察をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様が楽しく生活が送られるように、訪問マッサージや新聞の購読を行っている。食生活では個人の嗜好品を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外出が困難な方へは敷地内を利用し、外気浴ができるよう支援している。	天気の良い時期には、花見等のドライブに出かけたり、隣のコンビニに買い物に行き、地域行事へ参加し、畑の手入れ等外出の機会がある。介護度が重く、日常的な外出支援が困難な方は、敷地内の畑・庭等の外気浴等にて、気分転換をはかっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームにて現金をお預かりしている方に関しては、本人と家族の意向に合わせて対応できるようにしている。また、外出時は欲しい物を自分で見て購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は、入居者様とご家族の希望に応じて対応している。ご家族へは毎月手紙を送り、その中に入居者様の気持ちをお伝えするなどして、両者の関係性を保てるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間を明るく清潔に保ち、季節感を感じて頂くため、入居者様と作品を制作し、掲示している。	玄関や廊下、居間や階段等、各所が整理整頓され、利用者の動線が確保されている。温度・湿度、換気等も職員によって生活しやすいように管理されて快適な生活環境となっている。壁には利用者の作った作品や季節感の感じられる掲示物が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、和室、食堂、居室等、自由に過ごすことができる空間にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	今まで使用していたもの、または思い出のある物を持ち込んで頂き、自分の家で生活していたように居心地の良い環境に配慮している。	各居室には利用者が自宅で使用していたなじみの家具や仏壇、思い出の品、家族写真等を持ち込んでもらい、利用者の安全な動線を確保しながらも使いやすく配置してある。前回の評価で課題とされていた居室入り口は、間口を広げ車椅子利用者の移動も以前よりスムーズにできる様に改善されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に合わせ、手すりを設置する等、安全で自立した生活が送られるように工夫している。		